

氏名：藁谷 卓哉

所属専攻・職名：工学部 物理工学科 機械システム学コース 3年

派遣国：アメリカ合衆国

派遣先(研究機関名)：カリフォルニア大学デービス校

受入研究者(職・氏名)：Prof Janis Williamson, International English and Professional Programs Director

派遣期間：2012年8月9日～2012年9月3日(26日間)

派遣先での研究テーマ：UC DAVIS EXTENSION 京都大学 UC 実習型・夏季短期留学プログラム

(-UC DAVIS EXTENSION- KYOTO UNIVERSITY ENGLISH FOR SCIENCE AND TECHNOLOGY INTERDISCIPLINARY RESEARCH PROGRAM)

【研究実施概要】

施設訪問、グループワーク、スピーチや発音の指導などを通して英語によるプレゼンテーション能力を向上を目指した。また、週末には観光に出かけたり、ホストファミリーとともに過ごしたりと異国文化に触れる体験もした。私は Space Science というグループに所属し、プログラム最終日に「Air launching」(ロケットの空中発射)というテーマで約3分間のパワーポイントによるプレゼンテーションを行った。

【研究成果概要】

様々な施設訪問、英語でのプレゼンテーションの発表などを通して将来の海外留学(研究)を考える上で有益な情報を得た。

施設訪問は現地の一流の方々の講義を聴くという貴重な経験であった。私達 Space Science グループが行った場所はカリフォルニア大学デービス校航空宇宙工学研究室、NASA AIMS リサーチセンター、スタンフォード大学実験物理学教室である。日本で海外の講師の講義を受けるのとは違った、本場の独特な雰囲気の中で興味深い話題を提供してくださり多くの刺激をもらった。私はその中で航空宇宙工学研究室内の教授が提供して下さった「Air Launching」に興味を持ちプレゼンテーションで発表することに決めた。私は機械システムが専攻であり、最新の話題としてのロケット発射に興味を持ったからである。講義中はリスニング力の乏しさから聞き取れないことが多く、勉強不足を感じる部分もあったが、これをばねに今後一層英語の勉強に励みたいと考えている。

英語での Power Point を使ったプレゼンテーションの準備を通して人に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかということ学んだ。具体的にはスライドをシンプルにかつ分かりやすくする方法、Topic をどのように組み立てるかということ学び、実際に私の作ったスライドを添削していただいた。私は1枚のスライドに多くのことを書きすぎていることを指摘された。最も重要なことだけを書いて後は口頭で説明したほうが聴衆は興味を持ち、また記憶してもらいやすいのである。また、発表のリハーサルの際にはアイコンタクトの仕方、話すスピード、アクセント、発音、ジェスチャーの仕方など非常に実践的なことをご指摘いただいた。緊張するとどうしても早口になってしまいがちであるが聞き手に理解してもらうためにはゆっくりと、意味の切れ目を意識してポーズを置くことよということ学んだ。プレゼンテーション本番では、指摘されたことを意識して他人に分かりやすく、丁寧な発表を行うことを心がけた。やはり、人前で発表、しかも英語でのプレゼンテーションというのは緊張し、私にとって負荷の大きいものだったが良い評価をしていただいて少し自信になった。

【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上、海外におけるネットワークづくり】

社会で活躍しておられる方々を招いての英語講義、施設訪問、ホストファミリーとのコミュニケーションを通してリスニング力は向上したが、スピーキングはそれほどできるようになったとは思わない。また基本的に授業は京都大学の学生のみクラスであったので、現地の学生との交流はあまり無かった。しかし、ホストファミリーと仲良くなり、これからもやり取りが続いていくと思われる。また、ホストファミリー同士の交流として、ホームパーティーがよく行われ、そこで現地の方々と知り合う機会を持つことができた。



【派遣の感想】

様々な人との出会い、充実したプログラム内容は非常に満足のものだった。今回の留学の一番の成果は海外に行くということに対してためらいが少なくなったということである。また、同時に英語力の乏しさを実感することになり、今後のより一層の英語の勉強が必要であるということが身にしみてわかった。この短期留学で得た経験は間違いなく私の将来のキャリアプランに良い影響をもたらすと感じている。